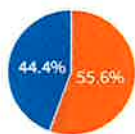


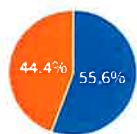
保育所の自己評価

令和7年3月19日

園の理念（キリスト教精神・愛の保育）が職員に共有されている



子ども一人ひとりを尊重し、愛をもって関わる姿勢が保育に反映されている



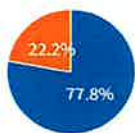
子どもの心の安定を大切に、安心できる雰囲気づくりができています



弱い立場の子どもや家庭に寄り添う姿勢が職員全体で共有されている



年間計画・指導計画が理念に基づいて作成されている



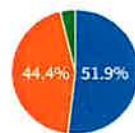
「養護」は保育士などが行う援助やかかわりであり、「教育」は子どもの活動がより豊かに展開されるための発達援助であることを理解し、実践している



子どもの発達や個性を丁寧に観察し、記録を保育に活かしている



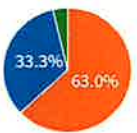
子どもが自由に選択できる環境（教具・活動）が整えられている



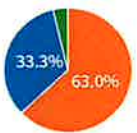
子どもが自己選択した活動を最後までやり遂げることができる十分な時間と空間を確保できるよう、職員間で見直しをしている



モンテッソーリ教育に基づき、子どもの自立を促す援助が行われている



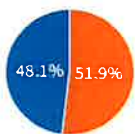
子どもの集中を妨げない関わり方ができている



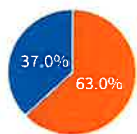
気になる子への支援が適切に行われ、必要に応じて関係機関と連携している



保護者と丁寧にコミュニケーションを取り、相談しやすい雰囲気をつくっている



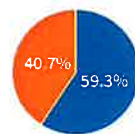
援助が必要な家庭に対し、柔軟な支援や心のケアが行われている



虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、発見した場合の対応についてマニュアルがあり、速やかに対応しなければならないことを認識している



保護者の悩みや不安を受け止め、必要に応じて専門機関と連携している



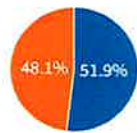
行事や日々の活動を分かりやすく伝え、家庭との協力体制を築いている



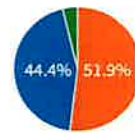
地域の子育て家庭に向けた講演会・園庭開放・行事参加などを実施している



地域の子育て支援機関と連携し、情報共有ができています



地域行事や交流活動を通して、子どもが社会と関わる機会を提供している



子育て支援活動が国の理念に基づき継続的に行われている



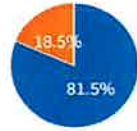
アレルギー対応が適切に行われている

施設内外の設備・用具などの安全点検を実施し、危険箇所の改善が行われている



モンテッソーリ教育・キリスト教精神・異年齢保育について職員の理解が深められている

遊樂訓練を計画的に行い、職員が役割を理解している



新人職員への理念共有が丁寧に行われている

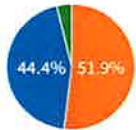
感染症対策（手洗い・消毒・換気）が徹底されている



子どもや家庭の心のケアに関する研修を受けている



職員間で子どもの情報共有が適切に行われている



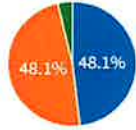
会議や打ち合わせが定期的に行われ、保育の質向上につながっている



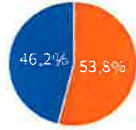
保育のPDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルが機能している



事故・ヒヤリハットの共有と改善が行われている



個人情報の管理が適切に行われている



異年齢の関わりが自然に生まれる環境が整っている



年長児が年少児を思いやり、助け合う姿を育む関わりができています



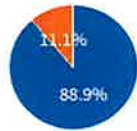
子ども同士のトラブルに対し、社会規範を学べるよう援助している



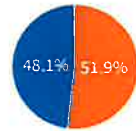
異年齢保育の良さを活かした活動が計画的に行われている



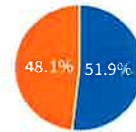
子どもが他者の気持ちに気づけるような言葉かけが行われている



困っている友だちを助ける経験が積める環境がある



職員が思いやりの姿勢を日常の中で示している



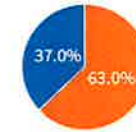
子ども同士の思いやりの行動を認め、育てる関わりができています



子ども同士の思いやりの行動を認め、育てる関わりができています



子ども同士の思いやりの行動を認め、育てる関わりができています



■できている ■だいたいできている ■できていない

* 令和7年度の取り組み状況

<努力した点>

- 戸外活動を行う際に、秋頃から乳児クラスも大きい園庭に出かけるようにしました。乳児と幼児の交流の機会が増え、乳児の子どもたちも体力がつけました。
乳児・幼児、敷地内の散歩に行く機会増やし、豊かな自然環境の中で四季の変化をより身近に感じられたと思います。
- 今年度は、乳児クラスで給食体験を再開しました。お子様の園での食事の様子、家での様子との違いなど感じていただくことができたとおもいます。
- 主体的・自主的な活動を一人ひとりができるように、乳児・幼児ともにデイリープログラムや保育の流れを見直しました。給食・おやつ時の配膳を、乳児は例年よりも早い時期にセルフサービスで行うことができました。各自、自分が食べられる量を取り、安定して運ぶことができるようになりました。幼児では、当番活動の内容や外遊びの時間を増やすことにより、積極的に活動に参加したり、食事量が増えるお子さまもいました。
- 食育、料理活動の一環としておやつや給食時に、パンやクラッカーのジャム塗り、ラップを使用したおむすび作り、リンゴの皮むき（幼児）などを取り入れ、自分で作って楽しく食べるということにつなげていくことができました。
- 昨年度までは、不定期に行っていたうさぎ（2歳児）の年齢別集まりを定期的、計画的に行うことができました。10月頃から同年齢の他クラスの子ども達と一緒に活動することにより、いつもと違う友だちとのつながりや保育士とのかかわりなど、幼児クラス進級に向けての準備につなげることができました。

<改善点・課題>

- コドモンを更に活用していく。（幼児クラスのドキュメンテーション・身体測定の入力や、行事予定をカレンダーに入れるなど）
- 子育て支援の一環として、交流保育の内容や回数を増やし、地域の子育て家庭、育児休暇中で入園を希望するご家庭に広く聖母の園保育園を知ってもらう機会を増やしていく。
- 地域との交流の機会を増やすため、老人ホームやケアプラザの訪問を行っていく。